

防災教育・周知啓発 WG 防災教育チーム これまでの議論、先行事例の成功要因の整理

1. これまでの議論の振り返り

□防災教育の内容としていきたいもの

- ・防災に関する知識（正常性バイアス、クラッシュ症候群等）
- ・地域に応じた災害リスク（徹底的な現実感）、新たな防災情報
- ・具体的な災害リスクに基づいた避難訓練（下校時訓練、ショート訓練等）の実践
- ・「愛他性」・「愛郷精神」・「心配性バイアス」の活用、心と心のコミュニケーション、他者への貢献
- ・想定にとらわれるな、ベストを尽くせ、率先避難者たれ
- ・災害の自分ごと化（防災小説等）

□防災教育の環境として整えたいもの

- ・学校教育の中に防災教育を位置づけ
- ・学校だけでなく地域社会（地域の大人、保護者、行政等）も主体的に関わる育みの環境、地域教育力、探求的な学びの場
- ・防災教育への信念と情熱を持った人（教師、サポーター）の育成
- ・防災教育へのマスメディア、ソーシャルメディアの関わり、モチベーションを与える防災教材の実装

[学校教育の中で]

- ・インパクトある教材での授業（手引き、映像等）
- ・「防災を通した」〇〇の教育、クロスカリキュラム
- ・考えるプロセスを褒める教育
- ・コミュニティ・スクール、アクティブラーニングの活用
- ・教職育成、教師教育への防災教育内容の反映

□防災教育の目指す効果

- ・「AだけでなくBも」といった防災教育の視野の拡大
- ・いきる かかわる そなえる

[人への効果]

- ・自分の命を必ず守り、さらに周りの人の命を救うことができる
- ・地域への愛、地域の一員としての役割意識、地域に役立っているという意識
- ・非認知能力の向上
(やり抜く力、リーダーシップ、主体性、社会性、共感力、想像力、自己肯定感、他者への配慮、論理的思考力、生きる力など、防災教育を通じて人間が大きく成長する)

[地域、国への効果]

- ・将来、地域に留まって地域を支える人材を得る
- ・地域の大人が防災教育に関わることを通じ、地域の大人の防災意識をも変え、共助の意識を高める

□エビデンス・検証を得たいもの

- ・防災教育の実施状況、実施内容
- ・防災教育の存在価値（長期的、広域的な効果（例えば非認知能力の向上）
→ 防災教育のプレゼンス向上
- ・防災教育を実施したときの学校満足度

2. 先行事例（釜石小学校、黒潮町）の成功要因の整理

防災教育の効果が確認できる2つの先行事例（釜石小学校、黒潮町）について、これら事例が成功した要因を整理。

※下記は、今までの会議での発言や資料を基に作成したもの

	釜石小学校	黒潮町
①防災教育への注力が始まった理由	<ul style="list-style-type: none"> ・過去、周期的に大型の津波被害を受けてきた地域であること。 ・防災教育の専門家が釜石市の教員全員を集めて防災教育の必要性を説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフの巨大地震による最大震度が7、最大津波高が34.4mという大変厳しい推計が公表された。
②防災教育の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼく・わたしの津波防災安全マップ作り。 ・下校時津波避難訓練。 ・津波防災授業 (・防災教育と共に、ふるさとを好きになってもらう教育(キッズマート)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災教育・ふるさと・キャリア教育」の実施。 ・防災教育を通じて災いと恵みという自然の二面性を伝える。 ・要配慮者宅訪問ヒアリング。総合防災訓練時の要配慮者へのサポート。 (・今後、防災教育に係る時間を確保するため、クロスカリキュラムの実施が必要。)
③教師との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・「不審者マップ作り」を「津波防災安全マップ作り」に応用するという教師の防災教育への理解と工夫。 ・津波防災授業のために「釜石市津波防災教育のための手引き」を作成。群馬大学の協力を得て、インパクトの強い映像等を授業で利用。 ・手引きに従い防災授業をしっかりと実践してくれる真摯な教師の存在。 ・日常の指導を充実。教師が地域を知り、実際に歩く。地域の人と関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町独自の「津波防災教育プログラム」「台風・大雨洪水・土砂災害防災教育プログラム」を策定。(町内で教育内容を統一するため) (・今後、教師の異動に関わらず、防災思想や防災教育を継続し、町や学校の文化としていきたい。)
④地域との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の地域会議に参加。 ・下校時津波避難訓練に参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区防災計画シンポジウムへの参加。 ・避難訓練への参加。

	<ul style="list-style-type: none"> ・校報による地域への周知。 ・地域の人と関わる機会を設けるため、学校地域支援本部事業を活用。 	(・今後、学校と地域を結ぶ中間組織が必要。)
⑤保護者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・津波防災安全マップ作りの際に、保護者も子どもとともに通学路を確認。 ・下校時津波避難訓練に参加。 ・講演会や校報による保護者への周知。 ・子どもとの防災に関する会話の促進。 	
⑥行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の地域会議で学校の取組として、マップ作りを共有。 ・下校時津波避難訓練への協力（訓練放送の依頼→防災課、訓練への参加依頼→地域福祉課）、参加。 	・地区防災計画シンポジウムの開催。
⑦防災関係の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・釜石小学校の184人の生徒全員が生き抜いた（正常性バイアスの克服）。 	・地区の避難訓練の参加率が33%から93%に上昇。
⑧防災以外に関する波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育をとおして、授業をしっかり覚えている、話をしっかりと聞くことのできる子どもたちが育った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと関わりを持つことで、高齢者の生きる活力が強く引き出される。 ・子どもたちの自己肯定感が醸成され、意欲が更に向上し、自主的な学びに繋がっていく（非認知能力の向上）。